Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

テュートリアル課題 住み慣れた我が家で

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033213

2018年度　　Segment.7

課　題　　No.5

課題名：住み慣れた我が家で

課題作成者: 東医療センター　在宅医療部 生沼幸子

東京女子医科大学
医学部学務課

無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意下さい。

課題シート

2018-S7-T1-5
住み慣れた我が家で

シート1

私のおばあちゃん（日野テル）は今年97歳になります。一緒に暮らしています。
耳が遠くなり、補聴器を使用しています。
さっき朝ご飯を食べたばかりなのに、「朝ご飯はまだなの」と言ったり、財布をしまった場所がわからなくなり、家族に「私の財布、とったでしょう？」と言うことがあります。
総入れ歯のため、やわらかい食事にしています。
時々、トイレが間に合わないことがあり、パンツ型の紙おむつを使っています。
夜間3～4回トイレにおきるので、熟睡できていないのか、昼間テレビをみながらウトウトしています。
便秘症のため、近所のかかりつけ医に下剤を処方してもらっています。
家のなかを歩く時でも、腰や膝を痛そうにしています。
最近、ころぶことが多くなり、トイレまで這って移動することもあります。
時々、「何もする気がしない。早くお迎え来ないかな。」と言うようになりました。

課題シート

2018-S7-T1-5
住み慣れた我が家で

シート2

かかりつけ医に相談したところ、「多くの老年症候群がみられます。後期高齢者健康診査の結果と、からだの機能、認知機能、抑うつ状態、生活の状態などを総合的に評価して、これからの治療やケアの方法について、考えましょう。」と言われました。

課題シート

2018-S7-T1-5
住み慣れた我が家で

シート3

からだの機能の障害や認知症の進行を防止するため、デイサービス（通所介護サービス）を利用することを勧められました。介護保険制度の要介護認定をまだ受けていないため、地域包括支援センターに相談に行くよう、アドバイスされました。
地域包括支援センターから紹介してもらったケアマネージャー（介護支援専門員）に、要介護認定の申請を依頼しました。かかりつけ医が、要介護認定の主治医意見書を作成し、区役所に送付してくれました。要介護認定の結果が出るまで、週1回デイサービスを利用することになりました。
1ヶ月後、区役所から、要介護3を認定されたと通知が来ました。

課題シート

2018-S7-T1-5
住み慣れた我が家で

シート4

100歳の誕生日が過ぎた頃から、昼間もベットで眠って過ごす時間が増え、体力的にデイサービスを利用することが難しくなりました。定期的に通院するのも大変なので、在宅療養支援診療所から週１回、医師が自宅に訪問診療に来てくれることになりました。訪問看護ステーションの看護師さんも週2日訪問看護に来ることになりました。自宅でサービス担当者会議（ケアカンファレンス）が開かれました。
この頃から、痰がからむ咳が目立つようになりました。誤嚥性肺炎と診断され、抗菌薬の点滴治療を何度か繰り返しました。だんだんと食事の量が少なくなりました。ほとんど口から食べられなくなった時、おなかに穴を開けて栄養剤を投与する方法があることを説明されました。医師、看護師、家族、親戚と相談してよく考えた結果、おばあちゃんが元気な頃、「自然に呼吸ができなくなったときに機械をつけたりしたくない、食事を自分で食べることができなくなった時に管から栄養を入れてもらうようなことはしたくない」と言っていたことを思い出し、家族は本人の力に任せ、自然に見守ることにしました。

課題シート

2018-S7-T1-5
住み慣れた我が家で

シート5

おばあちゃんは最近、昼も夜も眠っていることが多くなり、言葉がはっきりしなくなりました。

日曜日の朝、お父さんがおばあちゃんにヨーグルトを食べさせてあげました。
13時過ぎ、呼吸状態がいつもと違うことに家族が気づきました。
13時20分、大きな呼吸をした後、呼吸が止まりました。お母さんが、「呼吸が止まっているようなのですが・・・」と、いつも訪問診療に来てくれる医師に電話しました。医師は自宅に往診に来て、まるでベッドで眠っているような様子のおばあちゃんを診察しました。そして「ご臨終です。」と言い、その場で死亡診断書を書いていました。
おばあちゃんが本当に亡くなってしまったとわかった時は、悲しくて涙が止まりませんでした。でも、家族みんなに見守られて、穏やかに旅立ったおばあちゃんの最後は、幸せだったと思います。